

# 「わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）」

R.E.A.D.プログラムとは、Reading Education Assistance Dogsの略で、アメリカではAAT（動物介在療法）\*1の一環として行われています。人間相手ではなく、子どもが犬に本の読み聞かせを行うことで音読が苦手な子どもが自信を失うことなく意欲を育み、読書力の向上等の効果が期待できると共に自己肯定感を持てるようになり、犬との関わりを通して心の成長をうながすことを目的としたプログラムです。

こうべ動物共生センターでは、セラピー研究フィールドを設置して、科学的影響の調査を行いながら「わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）」を行っています。



## \*1 AATとは

Animal Assisted Therapyの略で、目標をもって計画、構築された治療的介入で、医療、教育、人的サービスの専門家（心理学者やソーシャルワーカー等を含む）によって監督、実行される心理療法のこと。



## 人と犬相互の科学的影響を調査・研究しています

### 《人に対する検証・研究》

「ひとりで読む」「犬に対して読む」「人に対して読む」の3パターンで音読しているお子さんの様子を動画で撮影・音声を収録させていただき、株式会社シーエーシー様が技術提供をしてくださっている感情分析ソフト「心 sensor」を使ったデータ分析やアンケート調査などを用いて、認知機能・精神状態に与える影響の実証的検証を行っています。土居裕和先生（長岡技術科学大学）のご指導のもと行っているこの研究は、令和4年度に神戸市保健事業に係る研究倫理審査委員会の承認を受け、神戸市の研究として実施しています。

### 《犬に対する検証・研究》

犬に対しては、島村俊介先生（大阪公立大学）により、参加した犬にかかるストレス測定をウェアラブルデバイスのペットバイタルセンサー装着による心拍計測、唾液採取による分析（オキシトシン等の濃度測定）、犬の行動観察により行っています。



このプログラムには、公益社団法人日本動物病院協会（JAHA）の訪問活動の経験豊富なボランティアの皆様とトレーニングを受けた愛犬たちに協力をいただいております。読み聞かせの後は、交流の時間を設けています。

実施においては、事業に参加する動物にはなるべくストレスがかからないように配慮し、IAHAIO（International Association of Human-Animal Interaction Organizations）<sup>\*2</sup>の「IAHAIO 白書（IAHAIO White Paper）」<sup>\*3</sup>に沿って行います。



#### \*2 IAHAIOとは

人と動物との相互作用の正しい理解を促進させるために各国で活動している学会、協会等の国際的な連合体として、米国のDelta Society（現 PetPartners）、フランスのafirac、イギリスのSCASが中心となって1992年に設立。人と動物の相互作用の分野を進歩させるため、国際的な指導力を提供することを使命としています。

#### \*3 IAHAIO白書とは

IAHAIO 動物介入介入の定義とAAI（動物介入介入 Animal Assisted Interventions）に係る動物の福祉のガイドライン。



## 【セラピー研究フィールドアドバイザーの先生方】

### 【国内アドバイザー】

- 中山 裕之先生（東京大学名誉教授、動物医療センターPeco 獣医療研究所長）
- 土居 裕和先生（長岡技術科学大学 技学研究院 情報・経営システム系 准教授）
- 柴内 裕子先生（赤坂動物病院総院長、公益社団法人日本動物病院協会（JAHA）相談役）
- 島村 俊介先生（大阪公立大学生命環境科学域 小動物臨床医学 准教授）

### 【海外アドバイザー】

- 木下 美也子先生（グリーン・チムニーズ&ファーム サム&マイラ・ロス研究所教育プログラム部長）
- Prof. Andrea Beetz（MA心理学、博士号（心理学）、博士号（特殊教育）特別・インクルーシブ教育教授 IU国際応用科学大学・ドイツ）